

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2193300098		
法人名	合同会社カーム		
事業所名	グループホームかんまち		
所在地	岐阜県飛騨市古川町上町459番地1		
自己評価作成日	令和3年11月4日	評価結果市町村受理日	令和4年2月3日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kairokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action_kouhvu_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2193300098-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	令和3年12月8日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>施設は古民家を改修し、ホーム内も畳敷きで昔ながらの環境を作っています。ホームから見る景色も田畑が広がり落ち着いて暮らして居ます。入居者の方には掃除・家事の役割があり、やりがいをもち生活しています。また、地域の方や同じ敷地内にあるグループホームの入居者の方と交流が出来ており、笑顔溢れるグループホームです。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>事業所は、利用者自身が「今、出来ること」を支え、住み慣れた地域で、その人らしく笑顔の絶えない日々を送れるよう支援している。古民家を改修したホームは、廊下や食堂兼居間も畳敷きとなっており、利用者が慣れ親しんだ生活様式で安心・安全に暮らすことができる。敷地内に同法人のグループホームがあり、利用者の昔馴染みの人との関係を継続しながら、畑で野菜を育てたり、掃除や調理の手伝い、様々な作品作りなど、一人ひとりが役割りを持って生き生きと参加している。管理者は、職員の資格取得を支援し、専門職としての介護力を高め、利用者へのより良い支援に繋げている。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目: 23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目: 9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目: 18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目: 2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目: 38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目: 4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目: 36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目: 11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目: 49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目: 30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目: 28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価票

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	リビングの理念が貼りだしてあり、皆が理念の共有が出来るように共有している。	理念の3項目を目につきやすい場所に掲示し、日々確認しながら、申し送り時に支援を振り返っている。職員は、利用者が住み慣れた地域の中で、安心して笑顔で暮らせるよう、理念に沿った支援に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	区長から毎月広報誌の回覧があったり、散歩中など近所の方に挨拶したりと交流があります。食材や日用品などは、同じ地域の馴染みある店へ行き買っています。	現在もコロナ禍にあるが、区長や民生委員から地域の情報を得ている。感染対策をした上で、近隣を散歩し、近所の人からは果物や野菜の差し入れがある。職員と一緒に利用者も事業所周辺の掃除を行ったり、食材や日用品の購入を地元の店を利用するなど、地域とのつながりを大切にしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	飛騨市介護サポーター対象施設として登録し、ボランティア等を受け入れるようにしている。本年度はコロナ禍のため受け入れは中止している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度もコロナの感染予防のため、運営推進会議は書面にて開催。書面や日常生活での気になることなどご意見を頂いてサービスの向上に努めている。	運営推進会議は書面会議とし、行事報告やヒヤリハット・事故事例、利用者の情報等を文書で報告している。家族や区長、行政等の関係機関にも送付し、意見を求め、それらを利用者サービスの向上に繋げている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議の書面にてホームの現状や活動の報告を行っている。分からないことがあれば市町村担当者等に相談連絡を取っている。	新型コロナの最新情報や介護保険の動向などの情報を受けながら、現場の意見も具申している。日常の困難事例なども相談し、適切なアドバイスを受けながら、利用者サービスにつなげている。行政主催の会議には積極的に参加をしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中、玄関の施錠はせず夜間のみとしている。また、ヒヤリハットなど事例を挙げどのようにしたら正しいケアが出来るのか申し送り時など話し合いを行っている。	敷地内のグループホーム合同で、身体拘束委員会を定期的に開催し、意見交換を行っている。職員間で日々のケアを振り返り、拘束につながる行為、スピーチロック、施錠など、具体的な事例を挙げ、身体拘束の弊害についても正しく学びながら、拘束を行わないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	コロナ禍のため、認知症実践者研修・初任者研修等zoomにて参加し、虐待の防止について学んでいる。		

岐阜県 グループホームかんまち

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	家族・関係者へ対応できるように制度についての研修会開催あれば参加予定している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前にホームの見学をしていただき環境を本人・ご家族に見ていただくようにしている。契約時にも、管理者と計画作成担当者が説明を行ない安心して入居していただけるようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナ感染予防もあり、面会時間の制限を取りながら利用者と家族との関わりを持てるようにしている。また電話でも連絡を取り合い家族から意見や要望を頂いている。	家族には、利用者の暮らしぶりや事業所行事等が分かりやすいよう、写真を多めに掲載したホーム便り「かんまち」を送付している。生活の一役を担う利用者の様子が伝わり、家族からは「こんなこともできるの？」など、喜びの声が聴けることもある。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	常に代表・管理者に職員が提案、また、毎月のカンファレンスに代表も参加し意見交換出来る場を作っている。	代表、管理者は、職員の意見や要望を把握できるよう日頃から現場に入り、毎月のカンファレンスにも参加している。職員の提案等も聞いている。利用者が、住み慣れた地域で職員と共に笑顔で暮らせることが代表の願いであり、職員のモチベーションを高めながら、より良い支援につなげている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	有給休暇を正社員・パート関係なく取得してもらっている。また希望の休みも取れるようにし、働きやすい環境を整えている。希望あれば短時間勤務にすることもある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	本人が受けたい研修があれば参加できるように勤務を調整し受講している。会社からも個人個人に連絡が入り研修の推進に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会に加入し、他のグループホームを訪問して、サービスの質、ケアの向上等に向けた情報交換を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に家族と本人と一緒に面談を行い、生活面や身体面の困りことや不安について細かく聞き取りを行いホームでの生活について丁寧に説明している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に家族と面談したり、見学してもらいホームの状況や運営などについて細かく説明している。また日頃から電話で連絡も取りあっている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族との面談及び担当ケアマネからの情報を統合し、必要なサービスの見極めを行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食器洗いや食器拭き、買い物・掃除など本人の力量に見合った家事を職員と一緒にしながら入居者の方とコミュニケーションを図っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	受診などの外出は家族にお願いし一緒に出掛けていただいている。また日用品なども家族に買ってきてもらい本人と家族の絆をつくっている。保つ機会をつくっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	現在は感染症のこともあり面会等時間を短縮しているが、ご本人とご家族の絆を作れるように受診など家族にお願いし顔を合わせる機会をつくっている。また外出支援ではドライブに出掛け馴染みの場所へ出掛けている。	コロナ禍ではあるが、家族側の気遣いもあり、短時間の面会を実施できている。また、利用者は、敷地内の同法人グループホームの利用者とも交流しながら、馴染みの関係を築いている。感染対策をした上で、ドライブにも出かけている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションや共同作業の一緒にいる時間を多く取っていることで入居者同士の関わりを取れるように支援に勤めている。隣のグループホームとの交流も行い関わりを増やせるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も家族や関係機関からの問い合わせには柔軟に対応するよう努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	思いを受け止めながら、本人が行いたいこと、やってみたいことを少しでも出来るように支援している。	職員は、日頃から利用者が安心して話せる雰囲気作りに努め、入居前のアセスメントを参考に、利用者の思いや意向を把握するよう心がけている。個別支援の際には、興味のあることを尋ねたり、会話の中で思いを推し量りながら、本人の希望が叶えられるよう支援に取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族から聞き取りを行い、必要によっては自宅や周辺の生活環境を見たり、他の入居者の方とドライブで訪れている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	会話をしたり、コミュニケーションを取りながら本人の思いを聞き取りをし、また体調面の変化も観察しながらスタッフで共有できるように記録に残している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	代表が計画作成者担当を兼務しており、契約当初から家族と面識があり、本人・家族の思いを把握でき、その意見を介護計画に反映させている。	代表はケアマネジャーでもあり、日常的に現場に入り、利用者一人ひとりの状態を把握している。家族の訪問時には意向を確認し、話し合いながら介護計画を作成している。利用者の現状に即さない場合は、変更・見直しなどを行っている。	コロナ禍の今、介護計画作成会議に合わせて、家族の参加を得るのは難しい状況であり、面会に訪れた際に、時間をかけて希望を聞いている。新型コロナ収束後には、利用者の暮らしぶりの確認、課題点やケアについて、家族と関係者が顔を合わせての会議開催に期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	本人の要望や発言などを日々の記録に残し、スタッフ間で情報を共有し介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	現在は感染症のため、外出の行事が立てれていないので、主に室内で行える行事(誕生会など)を計画したり、季節を感じれる料理と一緒に作っている。		

岐阜県 グループホームかんまち

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	飛騨市の介護サポーター制度に登録している。また、今年度コロナ対策のため、地域ボランティアの方も受け入れている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診については家族同行により、かかりつけ医へ受診してもらっている。スタッフの看護師もかかりつけ医・薬局とも相談などし連携を図っている。	契約時に、かかりつけ医についての説明を行っている。家族が受診同行をしたり、同行が困難な場合は往診を受けている。訪問看護ステーションの看護師が利用者の状態を把握し、職員や医師と連携しながら、適切な医療を受けられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	スタッフは本人の体調の変化などの気づきがあれば、看護師に報告相談を24時間いつでも出来る体制をとっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時は病院へ入院前情報を提供している。退院前に院内訪問し、関係者から情報提供を受けている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化した場合における(看取り)指針についての同意を家族にいただいている。	契約時に、重度化や終末期の対応について、利用者・家族に説明し同意を得ている。状態の変化時には早い段階で関係者が話し合い、方針を共有している。看護師、医師、職員等が連携し、適切な支援を行えるよう取り組んでいる。職員は、看取り介護について研修を受けながら、学びを重ねている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	普通救命講習を受講している職員が何名かいる。また講習を受けていない職員にも受講をしてもらう計画もしている。同じ敷地内のグループホームにAED設置してある。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	通報訓練、消火訓練などを定期的に行っている。また災害時の避難場所についてもホームの2階(物置き)や隣のグループホームの2階など垂直避難なども出来るようにしている。	年2回夜間想定を含めて火災訓練を実施し、通報、避難誘導、初期消火等を行っている。備蓄の非常食や水の消費期限、利用者にとって適切であるか等の点検も行っている。水害や地震等についても、地元の住民と話し合い、対応策など検討をしている。	今は、地域の防災訓練に参加していないが、今後は、災害時において、地域の協力を得られるよう、地域の訓練に参加し、事業所の訓練にも参加を得られるような工夫や、協力体制作りを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	スタッフ間で情報を共有し、その人にあった声掛けが出来るよう対応している。	利用者から、今までの暮らし方や体験談などを聞いている。常に利用者一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない対応に努め、敬う気持ちで接している。トイレや浴室での介助時には、プライバシーや羞恥心に配慮し、居室訪問時には、声かけをしてから入室している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いや希望に添えるような暮らしが出来るように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の体調、気分をうかがい、体操や散歩など無理なく過ごせるよう努めている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節ごとにタンスの整理をし衣替えをもらっている。また家族が本人の散髪されたり馴染みの美容院に連れていってもらったりと清潔な身だしなみができるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や食後の食器洗い・食器拭きなどの片付けなども一緒に行い支援している。ホームの裏にある畑から野菜を入居者の方に収穫してもらいそれを使った料理を提供して楽しんでもらっている。	食事は、庭で育てた野菜や近所の差し入れ等も利用しながら、三食とも、手作りで提供している。対面式のキッチンとなっており、準備や片付けなど、利用者も出来ることを手伝っている。利用者の経験を活かし、職員が調理方法を教わりながら、家庭的な料理を提供している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	10時.15時のお茶の時間以外でも散歩・入浴後などは水分をしっかりとってもらっている。また体調の変化により食事量など把握したい方は記録している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアの声掛けをし行ってもらっている。介助の必要な方は職員が対応している。夕食後には義歯の薬剤洗浄を行い清潔を保てるようにしている。		

岐阜県 グループホームかんまち

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	本人の排泄パターンを把握しトイレの声掛けを行っている。また清潔保持出来るようにパットの確認なども行い支援している。	職員は、ほとんどの利用者の排泄パターンを把握し、トイレでの排泄が習慣になるよう、こまめに声掛けと誘導で支援している。個々の排泄用品についても、状態に合っているかを確認し、清潔保持に努めながら支援に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事に野菜やヨーグルト等を提供したり、毎日の体操で体を動かし、自然な排便ができるよう努めている。また散歩や体操の時間を増やし便秘予防の対策に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2回の入浴を基本にしているが、その日の体調等に配慮しながら、また本人の希望される時間帯にはいれるように柔軟に対応できるようにしている。	入浴は週2回を基本とし、利用者の体調や希望で柔軟な支援を行っている。支援を行う際はコミュニケーションを図りながらも、自立支援を目標に、補助的な介助に努めている。入浴が困難な場合は、足浴やシャワーで対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室とリビングへの行ききは自由にしている。また、居室の空調を職員が調節し快適に暮らせる環境を作っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	常勤看護師が服薬管理をしている。職員も把握できるように毎朝の申し送り情報共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	畑仕事や編み物などその人その人にあった楽しみを見つけ充実した生活ができるよう支援する。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日には散歩に出掛けたり、季節を感じられる桜見・紅葉を見にドライブへ出掛けたり気分転換できる外出支援を行っている。	コロナ禍ではあるが、周辺は人通りの少ない環境であり、天気の良い日には、近隣の神社、事業所周辺を散歩している。また、イベントや行事を計画し、感染対策をした上で、ドライブを兼ねた外出支援を行うなど、気分転換を図っている。	

岐阜県 グループホームかんまち

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人、家族の希望で少額を手元に持っている方もみえる ホームで現金を預かる場合には金庫に保管し出納帳にて管理している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を持参してみえる方もいる 希望があれば相手先の都合を考え、電話を使ってもらっている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日、玄関、扉を開放し、外の空気・光を取り込んでいる。温度調整なども体調に関わってくるので特に配慮している。季節を感じてもらえる作品作りをしている。	古い民家を改修したホームは、廊下、共用の空間はすべて畳敷きである。転倒時のリスク軽減と共に、入居者にとっては、慣れ親しんだ生活様式である。対面式のキッチンで、職員と利用者が食事を準備する姿も微笑ましい。利用者それぞれが好きな場所で、自分なりの時間を過ごすことができる空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングには一人掛のリクライニングチェアが置いてありゆったりと過ごせる環境を作っている。また疲れた時などは居室へ自由に行き休んでもらっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自室には自宅で使用していた馴染みのものをもってもらい使用している。ご家族様の写真なども飾り安心できる空間になるよう努めている。	自室が分かり易いよう、表札を目線に合わせた高さに掛けている。居室も全室畳敷きであり、入居者に好評である。ベッドは利用者の状態に合わせて設置している。使い慣れた日用品を持ち込み、家族の写真を飾るなど、本人が落ち着いて暮らせる居室作りをしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内の手すりの高さを少し低く設置し、使いやすいようにしている 居室入り口やトイレにはネームプレートを設置し自室とわかりやすいようにしている		